

この調査の推計は、皆さんも各自記入したと思いますが、事故の起きた3月11日から2週間は、滞在場所を屋外、屋内、移動中に分けて分刻みで記入。屋内の場合は木造か鉄筋コンクリート造りか建物の区別。3月26日から7月11日分は居住地と定期的な外出先、1日の平均的な屋外と屋内の滞在時間を記述。「この記録を基に、文部科学省のモニタリングデータと SPEEDI（緊急時迅速放射能影響予測システム）から再現した各地の時系列の空間線量率を使って、外部被曝線量を計算した。子供の方が放射線に対する感受性が高く、年齢と建物の種類等を考慮した、という。

子供さんが居る家庭ではくれぐれも健康に留意し、県や国が行う検査には積極的に参加し、受診されることをお願いします。

国際放射線防護委員会が勧告する平常時の市民の年間被曝限度は自然由来と医療を除き、1ミリシベルト（mSv）と決めている。

Q：チェルノブイリや福島以外でも世界には放射性物質汚染で苦しんでいる人達がいるのでしょうか？

A：第二次世界大戦の末期である1945年から1960年代半ばまでに世界の大国は公式に認められているだけで核実験回数は計2037回、その他秘密裏に行った地下核実験、方法は様々でも現時点においても密かに行われているらしい、長野県松代にある、戦争末期大本営と天皇御座所の予定であった地下壕に設置されている地震感知設備が世界の僅かな振動でもキャッチしております。



（ビキニ環礁での核実験、黒い影は実験に供された軍艦、戦艦長門、米空母サラトガ等）

核実験は最初こそアメリカ国内の砂漠を実験場にして実施してました第二次大戦後の1946年～1958年にかけて数多くの軍事目的の大気中核実験を行った。

1954年3月1日に行われたキャッスル作戦の水爆実験（ブラボ - 作戦）は、アメリカ